



&lt;戻る&gt;

&lt;戻る2&gt;

## 桑原 司2000『社会過程の社会学』関西学院大学出版会BookPark

### 凡例

1.出典の明記については、原則として以下の形式で行っている。

:邦書については、「著者名・編著者名」「発行年」「頁数」の順で記してある。

例 船津、1976年、20頁。

:洋書に關しても、「著者名・編著者名」「発行年」「頁数」の順で記してある。但し、邦訳のあるものに關しては、原著の「著者名・編著者名」「発行年」「頁数」、邦訳の「発行年」「頁数」の順で記してある(例1)。なお、邦訳のみ参照の場合は、例2の形式で表記してある。

例1 Blumer,1969b,p.2=1991年、2頁。

なお、この場合、引用の訳文は訳者が適宜作成しており、そのため、訳文は必ずしも邦訳によらない。

例2 Fans,1967=1990年、16頁。

:また、リプリント版を使用している場合には、原著の「著者名・編著者名」「発行年」、リプリント版の「発行年」「頁数」の順で記してある。

例 Blumer,1977=1992,p.154.

:また、同一著者の異なる文献を続けて参照している場合には、邦書、洋書の如何に關わりなく、以下のような出典明記を行っている。

例 船津、1976年;1983年、20頁。

:なお、参照・引用文献はすべて、本論末尾に「参照・引用文献」として一括して掲載している。その表記例は以下の通り。

例 船津 衛、1976年、『シンボリック相互作用論』、恒星社厚生閣。

例 船津 衛、1993年、「ブルーマーの社会学とその『人間観』の基礎」、『社会学研究』第60号、東北社会学研究会、45–62頁。

例 Zorbaugh,H.W.,1929 The Gold Coast and the Slum,University of Chicago Press=1997年、吉原直樹、桑原 司、奥田憲昭、高橋早苗訳、『ゴールド・コーストとスラム』、ハーベスト社。

例 Glaser,B.G.,and Strauss,A.L.,1964,Awareness Contexts and Social Interaction,American Sociological Review:29,pp.669–679.

例 Blumer,H.G.,1993,Athens(ed.),Blumer's Advanced Course on Social Psychology,Studies in Symbolic Interaction:14,pp.163–193.

例 Blumer,H.G.,1967,Reply to Woelfel,Stone and Farberman,American Journal of Sociology:72,pp.59–68=Hamilton,P.,(ed.),1992,George Herbert Mead critical assessments vol.2 section2:Mead and Symbolic Interactionism,Routledge,pp.51–52.

2.引用文中の〔 〕で囲まれているところは、引用者による補足のための挿入をあらわす。また引用文中の……は、引用者による中略をあらわす。

3.引用文中の『 』は、引用文献が邦書である場合には「 」を、また洋書である場合には“ ”をあらわす。なお、筆者による叙述および引用文において、傍点が付されているものは、筆者あるいは原著者による強調(洋書の場合はイタリック体で記されているもの)をあらわす。なお、引用文中の強調は、筆者による特別な注記のない限り、すべて原著者によるものである。

4.本論の注は、本文の末尾に一括して掲載している。

東北大学審査学位論文(博士):1999年度

社会過程の社会学

—ハーバート・ブルーマーのシンボリック相互作用論における社会観再考—

目次

序章 問題の所在

第1章 自己相互作用と行為

第1節 自己相互作用—シンボリック相互作用論の三つの基本的前提をもとに—

第2節 ルイスによる主觀主義批判—「自己相互作用」論をめぐって—

第3節 ルイスに対する反論1):自己相互作用と「社会化」

第4節 ルイスに対する反論2):自己相互作用と「語り返し」

第5節 自己相互作用と行為

第2章 相互作用から社会へ形成されるものとしての社会

第1節 「社会はいかにして可能か」

第2節 三つの相互作用

第3節 相互作用から社会へ—ジョイント・アクションとしての社会—

第4節 形成されるものとしての社会

第3章 再形成されるものとしての社会

終章 経験的研究へ向けて—シンボリック相互作用論の研究手法の批判的検討—

注

参考・引用文献

まとめ

<http://ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/lecture.htm>へ